

八橋下水道終末処理場と秋田臨海処理センターの機能統合について

八橋下水道終末処理場は、供用開始から40年以上が経過し、機能維持のためには、老朽化した施設の改築更新に多額の費用を要することや、人口減少等による処理水量の減少が課題となっていることから、八橋下水道終末処理場における汚水処理を県の秋田臨海処理センターへ移行（以下「機能統合」）する方向で、協議を進めてきた。

このほど、秋田県と協議が整ったことから、平成32年度を目標に機能統合することとし、26年度は基本計画業務に着手する。

1 これまでの経緯

- 平成22年9月 秋田県下水道課と上下水道局で協議を開始
 23年12月 建設委員会に機能統合の目的や検討の進め方等を報告
 24年3月 〃 更新方法（案）を報告
 10月 県が「あきた循環のみず推進計画」公表（機能統合を位置付け）
 25年11月 県と市の協議の結果、機能統合の目標を平成32年度に設定

2 機能統合の概要と効果

項目	秋田市	秋田県ほか
機能統合の計画	<ul style="list-style-type: none"> 八橋下水道終末処理場から臨海処理センターへの接続管渠を敷設 八橋下水道終末処理場の汚水処理施設を廃止（雨水処理施設は存続） 	秋田臨海処理センターに水処理施設（30,000m ³ /日）を増設
目標年度	平成32年度	
機能統合の効果		
効率的な運営	<ul style="list-style-type: none"> 管理対象施設の減少 改築更新費および維持管理費の縮減 	<ul style="list-style-type: none"> 施設稼働率の向上 汚水処理原価の低減
経済効果	今後50年間で見込まれる削減コストは約120億円 <ul style="list-style-type: none"> 建設費約50億円 維持管理費約70億円 	構成市町村（3市4町1村）の維持管理負担金が縮減

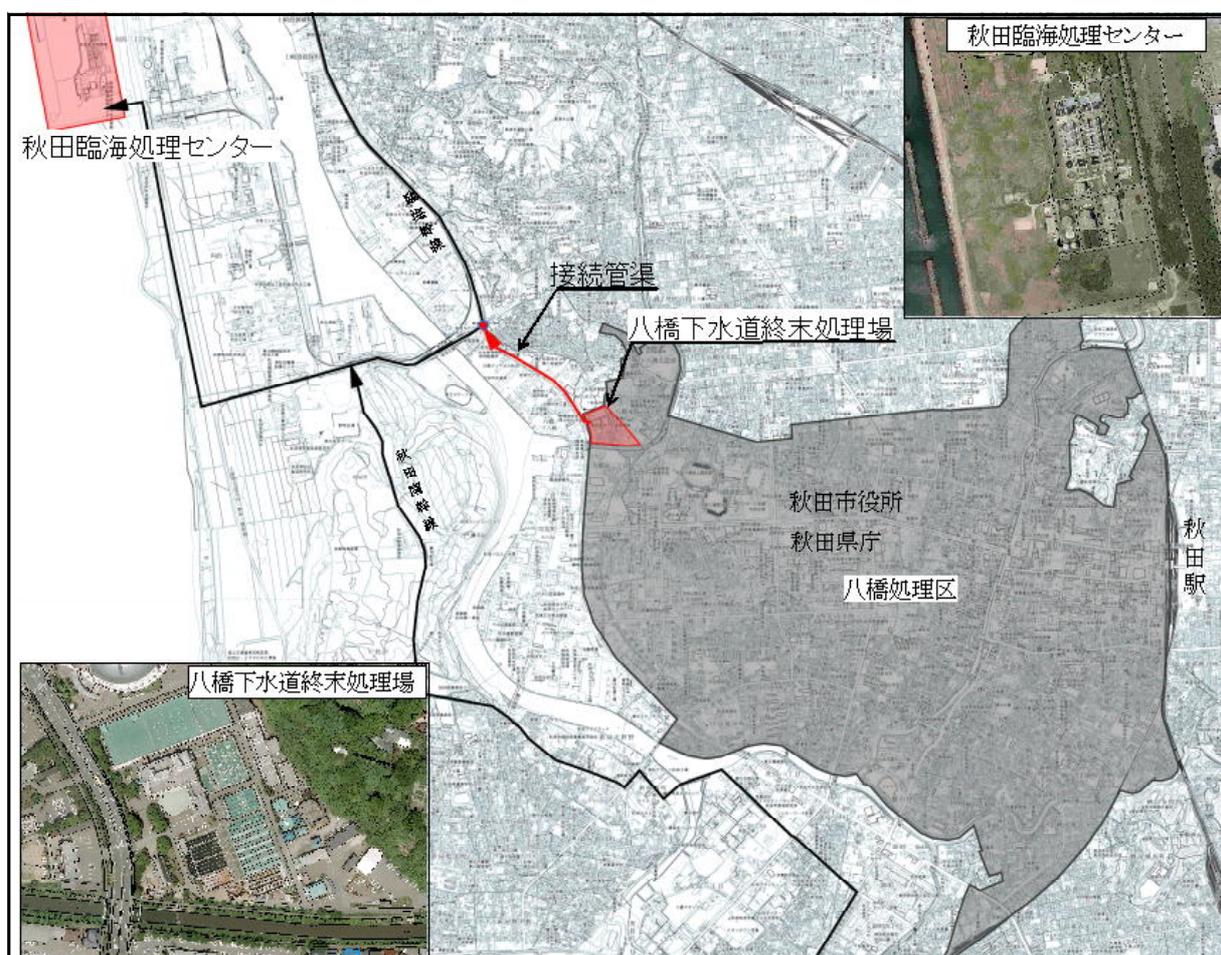
3 今後のスケジュール

項目	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	機能統合による処理開始
計画変更	H27全体計画変更、H28事業計画変更							
業務委託	H26基本計画 H29～30実施設計（接続管渠ルート、処理場改造）							
基本計画	→							
実施設計	→							
工事	H30～31工事（接続管渠敷設、処理場改造）							
(市)八橋終末処理場	→							
(県)臨海処理センター	→ (県)水処理施設の増設							
	→							

4 26年度の業務内容

- (1) 業務委託名
八橋下水道終末処理場機能統合基本計画
- (2) 予算要求額
10,000千円
- (3) 委託内容
 - ・機能統合に関する基本計画策定
 - ・八橋下水道終末処理場からの接続管渠および処理場改造に関する基本設計業務

5 位置図および各施設の概要



【施設の概要】

項目	八橋下水道終末処理場	秋田臨海処理センター
区域内排除方式	合流式（汚水＋雨水）	分流式
処理方式	標準活性汚泥法	標準活性汚泥法
施設能力(m ³ /日)	62,000	120,000
処理開始年月	昭和45年4月	昭和57年4月